

レプトスピラ症

Leptospirosis

レプトスピラ症は、腎臓や肝臓、神経がおかされ、人にも感染する可能性のある人畜共通伝染病です。犬の他にも、様々な家畜、野生動物に感染して伝播します。人に感染するとワイル氏病とよばれ、アメリカでは約3割が犬からの伝播であるといわれています。また、ネズミも重要な感染源となっています。

この病気にはたくさんの型があり、特に問題となるのは人と犬に共通な、黄疸出血型とカニコラ型と呼ばれるものです。感染犬の尿中に原因菌が排泄されるので、獣医師や動物看護師等動物関係の仕事の方は特に感染の可能性がありますので注意が必要です。

レプトスピラは人にもうつる病気なので、ワクチンによる予防、早期発見、早期治療、二次感染の防止が重要となります。

原因

この伝染病の原因はレプトスピラと言われる細菌の感染により起こります。この細菌には多くの型が存在しますが、特に問題となるのは前述の黄疸出血型とカニコラ型です。

伝染方法は、この菌を持っている動物の排泄物、特に尿に触れることや、汚染された土や水などを口にするにより起こる経口感染が一般的です。また、皮膚に傷などがあるとそこから病原菌が体内に侵入する経皮感染もあります。ねずみをはじめ多くの野生動物がその保菌動物となっていますので接触には注意が必要です。

症状

潜伏期は2～12日程度で、黄疸出血型は、突然の高熱、黄疸、嘔吐、下痢、菌茎の出血等の症状がでて、数時間から数日で死亡します。カニコラ型は、腎臓が侵されるのが特徴で、高熱や嘔吐、下痢（血便）、脱水症状を起こし尿毒症にいたることがあります。こちらも重症のものは腎不全で死亡します。

診断法

動物病院では、一般的に、問診、視診、触診、血液検査などを行い仮診断して治療を始めます。確定診断を行うには、検査機関に依頼して抗体検査や特殊な方法によりレプトスピラを確認します。

治療法

レプトスピラは細菌ですので、有効な抗生物質の投与を行います。その他症状にあわせて、解熱剤、栄養剤、利尿剤などの投与、点滴などの対症療法を行います。時には透析などが必要なこともあります。

この病気は治療を途中で止めず、検査、治療をくり返

し完治するまで治療を行わないと保菌動物になあって回復しても数カ月菌を排出しつづけ、新たな感染源になりますので、獣医師の指示をきちんと守って治療してください。

自宅での看護法

治療は獣医師に任せるしかありません。自宅では、他の犬への感染に十分注意してください。

退院あるいは通院できるようになったら、消化がよく栄養価の高い食餌を与え、獣医師から指示された投薬をきちんと行いましょう。また、汚物などはこまめに処理してあげて清潔な環境を保つことが重要です。この病気の場合は人間にも感染する危険性があるので、手袋などを着用して世話をするようにしてください。

予防法

現在は有効なワクチンが開発されていますので、ワクチン接種で予防することができます。犬の混合ワクチンのうち、俗に言う7種以上にはレプトスピラの予防が含まれていますので、獣医師と相談して高度感染地域であれば7種以上のワクチンを接種しましょう。

メモ

雄犬は雌犬に比べ3～5倍も感染率が高いことが判っています。病犬は回復しても長期間その尿に病原菌を排出する可能性がありますので、定期的な検査が必要です。また、散歩などのコースで川沿いや池などがある場合は汚染あるいは再感染の源となる可能性があるため注意しなければなりません。